

みずほマーケット・トピック (2019年2月1日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照くださいませ。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は下落した。週初 28 日に 109 円台半ばでオープンしたドル/円は、先週 25 日に米 WSJ 紙が FRB はバランスシート縮小を予想よりも早い段階で終了することを検討していると報じたことによるドル売りが続き 109 円台前半まで弱含み。29 日は下げている日経平均株価が持ち直すとドル/円も買い戻され、その後は週内の FOMC や米中貿易協議を控えて 109 円台半ばで様子見ムードとなった。30 日は発表された米 1 月 ADP 雇用統計が予想を上回り、週末の米 1 月雇用統計に対する期待が高まったことからドル買いが強まると一時週高値となる 109.75 円をつけた。しかし、その後は FOMC を控えてじりじりと下落し、注目の FOMC は声明文で緩やかな利上げが適切との文言が削除され、将来の政策金利の調整について忍耐強くなるとの文言が挿入されるとドル売りが強まり、ドル/円は 109 円台前半まで下落。さらに、パウエル FRB 議長が記者会見でバランスシートの縮小をより早い時期に停止する可能性があるなどと述べると 109 円を割り込んだ。31 日も前日の流れが続き一時週安値となる 108.49 円をつけたが、米 11 月新築住宅販売件数が予想を大きく上回ったことから反発。トランプ米大統領が中国の習近平国家主席と再び会談することに意欲を示したことなどが好感されて 109 円手前まで戻し、本日のドル/円も同水準で推移している。
 - 今週のユーロ/ドル相場は週後半に上下する展開。週初 28 日に 1.14 近辺でオープンしたユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1390 をつけたが、メイ英首相の EU 離脱代替案の採決を翌日に控えて 1.14 台前半近辺まで買い進められた。29 日は、翌日の FOMC を控えて 1.14 台前半で小動き。30 日は独 1 月消費者物価指数が弱かったことや米 1 月 ADP 雇用統計の結果を受けたドル買いに 1.14 手前まで下落した。だが、注目の FOMC 声明文を受けてユーロ/ドルは 1.14 台後半へと急伸し、パウエル議長の記者会見を受けたドル売りに一時 1.15 台に乗せた。このレベルではユーロ売り意欲もあり反落したが、翌 31 日もドル売りの流れが続いたことからユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1514 をつけた。しかし、イタリアの 10~12 月期実質 GDP が前期比 0.2% となり、テクニカルリセッション入りとなることが報じられるとユーロは下落。その後も良好な米経済指標を受けたドル買いに 1.14 台前半まで下押しされ、本日のユーロ/ドルは 1.14 台半ばで推移している。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		1/25(Fri)	1/28(Mon)	1/29(Tue)	1/30(Wed)	1/31(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.60	109.43	109.26	109.42	108.98
	High	109.95	109.59	109.55	109.75	109.07
	Low	109.46	109.17	109.14	108.81	108.49
	NY 17:00	109.55	109.33	109.42	109.05	108.86
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1313	1.1413	1.1430	1.1435	1.1485
	High	1.1418	1.1444	1.1450	1.1501	1.1514
	Low	1.1301	1.1390	1.1411	1.1406	1.1435
	NY 17:00	1.1405	1.1425	1.1431	1.1479	1.1447
ユーロ/円	東京9:00	123.95	124.87	124.90	125.13	125.14
	High	125.31	125.01	125.22	125.46	125.29
	Low	123.80	124.60	124.69	124.90	124.50
	NY 17:00	124.95	124.92	125.02	125.18	124.62
日経平均株価	20,773.56	20,649.00	20,664.64	20,556.54	20,773.49	
TOPIX	1,566.10	1,555.51	1,557.09	1,550.76	1,567.49	
NYダウ工業株30種平均	24,737.20	24,528.22	24,579.96	25,014.86	24,999.67	
NASDAQ	7,164.86	7,085.69	7,028.29	7,183.08	7,281.74	
日本10年債	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	
米国10年債	2.76%	2.74%	2.71%	2.68%	2.63%	
原油価格 (WTI)	53.69	51.99	53.31	54.23	53.79	
金 (NY)	1,303.15	1,303.38	1,311.80	1,319.97	1,321.21	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、2月15日を期限とする暫定予算の成立によって米政府機関の一部閉鎖が解除されている。この関係で、公表が延期されていた経済指標の一部が来週中にも明らかとなりそうだ。10～12月期実質GDP(速報値)は前期比年率+2.6%と前期(同+3.4%)から減速する見通し。米中貿易摩擦が拡大、長期化する中で企業の投資意欲が減退していることや、住宅市場の低迷が主な減速要因になるとみられる。一方、個人消費については堅調な拡大が確認されよう。12月小売売上高(食品、自動車、建材、ガソリン除く)は前月比+0.3%の伸びが見込まれている。市場予想を大きく上回った11月(前期比+0.9%、市場予想は同+0.4%)や上方修正された10月(前月比+0.3% 同+0.7%)の反動も予想される中で、堅調な伸びといえる。FRB高官の講演等も複数予定されている。FOMC声明からも明らかのようにFRBがハト派寄りの姿勢を強めつつあるが、3月FOMCに際して公表されるドットチャートの形状変化を占ううえで、タカ派といわれるメスター・クレーブランド連銀総裁(2019年はFOMCにおける投票権なし、2020年は有り)の発言などが注目される。同総裁の講演は現地4日(日本時間5日午前)に予定されている。このほか、米中覇権争いの行方に関連して、米中閣僚級協議およびトランプ大統領と劉副首相との会談を経ての両国からの声明内容や、5日の一般教書演説が注目される。昨年の一般教書演説では、中国を念頭に「経済的に屈服する時代は終わった」と貿易問題へのスタンスを明確にした。

	本 邦	海 外
2月1日(金)	・12月労働力調査 ・1月自動車販売台数	・ユーロ圏1月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏1月消費者物価(速報) ・米1月雇用統計 ・米12月建設支出 ・米1月ISM製造業景気指数 ・米1月シガン大学消費者マインド(確報)
4日(月)	・1月マネタリーベース	・米11月耐久財受注(確報)
5日(火)		・ユーロ圏1月サービス業PMI(確報) ・米1月ISM非製造業景気指数 ・米大統領一般教書演説
6日(水)		・独12月製造業受注 ・米11月貿易収支 ・米10～12月期雇用コスト指数
7日(木)	・12月景気動向指数(速報)	・独12月鉱工業生産 ・米12月消費者信用残高
8日(金)	・12月国際収支 ・1月貸出・預金動向 ・12月毎月勤労統計 ・1月景気ウォッチャー調査	
週内に発表される可能性のある指標		・米12月個人所得・支出 ・米10～12月期GDP(速報値) ・米12月小売売上高 ・米12月耐久財受注(速報、確報) ・米12月貿易収支 ・米12月卸売在庫(確報)

【当面の主要行事日程(2019年2月～)】

- 米FOMC(3月19～20日、4月30日～5月1日、6月18～19日)
- ECB政策理事会(3月7日、4月10日、6月6日)
- 日銀金融政策決定会合(3月14～15日、4月24～25日、6月14～15日)
- FRB議長半期議会証言(2月中)
- 米大統領予算教書、大統領経済報告書(いずれも2月中)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2019年2月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 失業率(12月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、1月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、1月) 米国 雇用統計(1月) 米国 建設支出(12月) 米国 ISM製造業景気指数(1月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、1月)	
4 日本 マネタリーベース(1月) 米国 耐久財受注(確報、12月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、1月) 米国 貿易収支(12月)	6 ドイツ 製造業受注(12月)	7 日本 景気動向指数(速報、12月) ドイツ 鉱工業生産(12月) 米国 消費者信用残高(12月)	8 日本 国際収支(速報、12月) 日本 毎月勤労統計(12月) 日本 景気ウォッチャー調査(1月) ドイツ 貿易収支(12月) 米国 卸売売上高(12月)	
11 日本 建国記念日	12 日本 マネースtock(1月) 日本 第三次産業活動指数(12月) 米国 財政収支(1月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	13 日本 国内企業物価(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(12月) 米国 消費者物価(1月)	14 日本 GDP(速報、10~12月期) ドイツ GDP(速報、10~12月期) ユーロ圏 GDP(速報、10~12月期) 米国 生産者物価(1月)	15 日本 鉱工業生産(確報、12月) ユーロ圏 貿易収支(12月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(2月) 米国 小売売上高(1月) 米国 鉱工業生産(1月) 米国 企業在庫(12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、2月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(12月)	16
18 日本 機械受注(12月)	19	20 日本 貿易収支(1月) 米国 住宅着工(1月) 米国 FOMC議事要旨(1月29~30日開催分)	21 日本 全産業活動指数(12月) ドイツ 消費者物価(確報、1月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、2月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、2月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(2月) 米国 中古住宅販売(1月) 米国 景気先行指数(1月)	22 日本 全国消費者物価(1月) ドイツ GDP(確報、10~12月期) ドイツ IFO企業景況指数(2月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、1月)	
25 米国 シカゴ連銀全米活動指数(1月)	26 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(12月) 米国 新築住宅販売(1月) 米国 消費者信頼感指数(2月)	27 米国 耐久財受注(速報、1月)	28 日本 鉱工業生産(速報、1月) 日本 新設住宅着工(1月) ドイツ 消費者物価(速報、2月) 米国 GDP(2次速報、10~12月期) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(2月)		

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2019年3月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 失業率(1月) 日本 東京都都区消費者物価(2月) 日本 自動車販売台数(2月) 日本 法人企業統計(10~12月期) 製造業PMI(確報、2月) ユーロ圏 失業率(1月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、2月) 米国 個人消費・所得(1月) 米国 ISM製造業景気指数(2月) 米国 建設支出(1月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、2月)	
4 日本 マネタリーベース(2月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、2月) 米国 ISM非製造業景気指数(2月)	6 米国 ADP雇用統計(2月) 米国 耐久財受注(確報、1月) 米国 ページュブック	7 日本 景気動向指数(速報、1月) ユーロ圏 GDP(確報、10~12月期) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) 米国 貿易収支(1月) 米国 消費者信用残高(1月)	8 日本 GDP(確報、10~12月期) 日本 国際収支(1月) 日本 貸出・預金動向(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(2月) ドイツ 製造業受注(1月) 米国 雇用統計(2月) 米国 卸売売上高(1月)	
11 日本 マネーストック(2月) ドイツ 鉱工業生産(1月) ドイツ 貿易収支(1月)	12 米国 消費者物価(2月) 米国 財政収支(2月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	13 日本 国内企業物価(2月) 日本 第三次産業活動指数(1月) 日本 機械受注(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(1月) 米国 生産者物価(2月)	14 ドイツ 消費者物価(確報、2月) 米国 小売売上高(2月) 米国 企業在庫(1月) 日本 金融政策決定会合(-15日)	15 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(3月) 米国 鉱工業生産(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、3月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(1月)	
18 日本 貿易収支(2月) 日本 鉱工業生産(確報、1月) ユーロ圏 貿易収支(1月)	19 米国 住宅着工(2月) 米国 FOMC(-20日)	20	21 日本 春分の日 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(3月) 米国 景気先行指数(2月)	22 日本 全国消費者物価(2月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、3月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、3月) 米国 中古住宅販売(2月)	
25 ドイツ IFO企業景況指数(3月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(2月) 米国 新築住宅販売(2月)	26 日本 企業向けサービス価格(2月) 米国 耐久財受注(速報、2月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(1月) 米国 消費者信頼感指数(3月)	27	28 米国 GDP(3次速報、10~12月期) ドイツ 消費者物価(速報、3月)	29 日本 失業率(2月) 日本 東京都都区消費者物価(3月) 日本 鉱工業生産(速報、2月) 日本 新設住宅着工(2月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、3月) 米国 個人消費・所得(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、3月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(3月)	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～
2019年1月22日	堅調なユーロ相場の背景にある欧州の減速
2019年1月21日	対米貿易黒字ゼロ計画について～マッチポンプは終わらず～
2019年1月18日	週末版(正常化どころではないECBを取り巻く近況～市場のメインシナリオは転換済み～)
2019年1月17日	英国情勢の論点整理～「壮大な茶番劇」に終わるか～
2019年1月11日	週末版
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～真正正銘のリスクオフを前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCの前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか?
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の動所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツそしてEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追従する株価～
2018年12月4日	バリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーティールを視野に入れ始めた債券相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの挙動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の動所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜き出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～底うほど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際与信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして…～
2018年10月10日	ベースス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～
2018年10月5日	週末版(ECBを迎える「未知の世界」～緊縮下での金融引き締め～)
2018年10月4日	ドイツ化するユーロ圏～求められる正しい陣頭指揮～
2018年10月3日	イタリア政局の整理～今回ばかりはイタリアに言い分も～
2018年10月2日	外国人労働者受け入れ拡大～昔「円高是正」、今「人手不足」～
2018年10月1日	円高見通しが実現していない理由
2018年9月28日	週末版
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～
2018年9月21日	週末版
2018年9月20日	安倍首相による緩和撤退宣言～言うは易し…だが～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年8月分)
2018年9月19日	市場は「返り血」を浴びるまで分らないのか?
2018年9月18日	基礎通貨ユーロという「見果てぬ夢」～機能面からの再考～
2018年9月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資方針とユーロ高に対するヒントあり～)
2018年9月13日	突然の基礎通貨宣言をどう読むか～ユニケル発言について～
2018年9月12日	続・リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月10日	リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月7日	週末版(「次の標的は日本」の本気度～第2回日米貿易協議(FFR)を前に～)
2018年9月6日	軟化を続けるソフトデータ～皮肉な米経済の好調～
2018年9月5日	ECB利上げを巡り政治的な動き?～ECOFINのテーマに～
2018年9月4日	主要通貨で「膠着」が続く理由～離れせは新興国に～
2018年9月3日	「保護主義は中間選挙まで」という危うい案観
2018年8月31日	週末版
2018年8月29日	米国株独り勝ちをどう読むか?～BISビューに基づく抑制へ～
2018年8月28日	メインシナリオへのリスク点検～高まる欧州政治リスク～
2018年8月27日	ECB総裁が欧州委員長か～メルケル独首相の愛心～
2018年8月24日	週末版
2018年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年7月分)
2018年8月17日	週末版(2018年上半期の対米資本フローの整理～色褪せる「カネ余り」、「ゴルドロック」～)